

# 平成31年度学校自己評価システムシート（埼玉県立越谷北高等学校）【最終シート】

目指す学校像	高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルリーダーを育成する。
重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び」と規範意識の醸成をとおして、「学びに向かう力」を育成する。 2 SSHの取組を核とした理数教育と、「リベラルアーツ」教育の充実により、論理的思考力を高める。 3 高い進路目標を実現する学校として、保護者、地域、小中学校等と積極的に連携する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 8名  
 生徒 5名  
 事務局(教職員) 14名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 1 月 3 1 日 現 在 )				
号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	実施日	学校関係者からの意見・要望・評価
1	【現状】 ○生徒の授業や部活動への取組姿勢はよい。 ○ICT等の教育環境は整いつつある。 ○生徒指導体制は整っている。 【課題】 ①主体的・挑戦意欲などの育成が必要である。 ②新学習指導要領に対応する指導の工夫・改善が求められている。 ③自ら規範意識を高められる生徒への成長が望まれる。	①学力の3要素の向上を目指した指導の実践 ②主体的な学び・部活動等への積極的な取組を促す指導の工夫・改善 ③生徒が自ら考え、交通マナーや生活規範を守る姿勢を身に付ける指導の工夫・改善	①「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を高める授業実践 ②授業への積極的な参加や対話を促す指導の実践 ③計画的で主体的な家庭学習を促す指導の実践 ④協働性、人間力を高める部活動や生徒会活動等の充実 ①あいさつ、身だしなみ、交通マナー、情報モラル等について、生徒の自覚と成長を促す指導の工夫・改善	①学力の3要素を高める具体的な授業の実践状況 ②生徒の授業に対する評価 ③生徒の学習に向かう姿勢や意欲等の変容状況 ①「主体的な学び」を促す授業実施頻度や実践の状況 ②「北高ダイアリー」等を活用した計画的な家庭学習の状況 ③部活動への加入及び活動状況、生徒会の活動状況 ④新教育課程編成の進捗状況 ①生徒間、教職員及び来校者へのあいさつの状況 ②登下校時の交通マナーの順守状況、指摘等への対応状況 ③スマホの使用などで自律的な行動ができる生徒の割合	①「思考力・判断力・表現力」を高める授業に取り組んでいる教員 93.0%【教】 ②授業姿勢は良好。授業への期待は、ほぼ全学年で、受験対策:約60%、知識の習得:約20%。 ③授業・特別活動等を通じて生徒の「主体的性」を高める取組の実践状況 86.0%【教】 ④家庭学習を全くしない生徒は全学年でほぼ皆無。自主的・計画的に自学自習に取り組む生徒が全学年で30%超(増)。 ⑤部活動所属生徒(前回比)1年生:99.7%(増)、2年生:88.0%(減)、3年生:85.5%(減)。 ⑥教育課程編成方針を作成。教育課程を編成中。 ①あいさつ、交通マナー、スマホの使用など自律的な生徒の育成指導の取組状況 93.0%【教】 ②定期的な全職員分担による登校指導、登下校時の苦情等に対する迅速な対応を実施。 ③ネットマナー等に関する意識啓発指導(講演会・LHR等)を実施。	A	①「主体性」「思考力・判断力・表現力」を高めるため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の充実 ②新教育課程の実施に向けた指導法の開発と実施 ③タブレットやプロジェクターなどICTを活用した授業を実践する教員の増加、教材データの共有化 ④「部活動方針」をふまえ、部活動と勉強の両立に向けた計画及び指導の工夫・改善 ⑤生徒自身が自ら考え、自律的な生活者となるような生徒指導の工夫・改善	○授業参観もしたが、落ち着いた様子であり評価に値する。 ○工夫された芸術教科の授業にも、楽しそうに取り組んでいる。 ○生徒が主体的に動くような目標設定・運営ができる機会を学校全体で設けるとよいのではないかと。 ○教員と生徒との目標などのすり合わせが重要である。 ○部活動での主体性育成について、どのように指導しているか。 ○部活動のガイドラインのために、生徒が練習できないこともあるのではないかと。自主的に取り組みたい生徒の思いが叶わないことはないかと。	
2	【現状】 ○SSH事業への指導体制が整いつつある。 ○クロスカリキュラムの開発が開始された。 【課題】 ①SSH事業への取組を全校に広めることが重要である。 ②リベラルアーツの基礎となる指導の研究・実践が重要である。 ③課題発見力や論理的思考力向上のための指導や評価の工夫が求められている。	①理数科と他分掌・他教科が連携したSSH事業の展開、普通科生徒の積極的な参加 ②クロスカリキュラムの研究開発 ③課題発見力や論理的思考力などの向上のための探究的学習の指導・評価の実践・研究	①SSH推進委員会を中心とした全校的な取組の充実 ②普通科生徒のSSH事業への参加促進 ③国際交流プログラムなどの実施 ①クロスカリキュラム授業のシラバス作成 ②クロスカリキュラム授業の実践と検証 ③グローバル人材としての基礎的素養の指導の充実 ①課題発見力や論理的思考力を高める授業実践 ②ポートフォリオやルーブリックなど客観的で妥当な評価の実践・研究	①理数科以外の教科等の教員のSSH事業への参加状況 ②理数科以外の生徒のSSH事業への参加状況 ③学校内外の国際交流プログラムへの応募及び参加、実施の状況 ①教科間連携によるクロスカリキュラムのシラバス等の作成状況 ②クロスカリキュラム授業の実践及び生徒の取組状況 ③グローバル人材としての素養の育成に関する研究開発 ①LHRの内容の改善及び「総合的な探究の時間」実施に向けた検討状況 ②課題発見力等コンピテンシーの評価方法の開発と実施状況	①SSH推進委員会において、海外派遣事業等の全校的な取組に向けて検討、次年度実施予定。 ②全生徒に対してさくらサイエンスプログラム、「グリーンインフラプロジェクト」等への参加を促進。 ③さくらサイエンスプログラム参加多数、カナダ派遣30名、ハーバード・MIT派遣3名、エンパワメントプログラム参加13名などさまざまなプログラムへの参加生徒増加。 ④クロスカリキュラムのシラバスにもとづいた教科や個人による指導案作成状況 52.6%【教】 ⑤上記クロスカリキュラムの指導案に基づく授業の実践状況 49.1%【教】 ⑥グローバル人材としての資質育成の取組参加に向けた意識啓発の実践状況 75.4%【教】 ⑦探究に関する先進校(3校)視察を実施。探究活動実施に向けたWG発足。次年度は担当分掌設置予定。 ⑧e-ポートフォリオの活用を開始。ルーブリック評価等評価方法の研究状況 38.6%【教】	B	①理数科の特色を生かしながら、SSH事業への理数科以外の教員の参加、普通科生徒への情報提供、参加促進 ②海外派遣やエンパワメントプログラム等グローバル人材としての資質を高める取組の継続と生徒に提供する機会の拡大 ③クロスカリキュラムの指導案の開発と授業実践の増加 ④探究活動の充実、「総合的な探究の時間」の計画的な実施 ⑤学習評価の改善に対応するためのルーブリック評価やポートフォリオ評価などの研究と実践	○普通科の生徒のSSHに対する評価が低い。理数科など一部での活動となっていることが課題である。時間をかけて全校に理解をしてもらおう、という考え方も必要なのではないかと。 ○SSHは何に特化して、通常と何が異なるのか。一方では、文系のことでもアピールすべきである。 ○時代の流れを踏まえると、異文化への対応が必要なのではないかと。 ○小学校の段階から私立校へ流れている現状がある。県立高校を応援したい。 ○中学校では漠然とでもいいから将来について言えるように指導している。進路や探究については、まず自分のことを知るからスタートするとよいのではないかと。	
3	【現状】 ○生徒の第一志望を諦めさせない進路指導に取り組んでいる。 ○本校の教育活動への理解を高める取組をしている。 【課題】 ①生徒に高い進路目標の実現に取り組ませる指導の一層の工夫が必要である。 ②本校の教育活動への一層の理解を促す工夫が必要である。 ③学校関係者との連携の工夫が求められる。	①キャリアプランを考えさせ、学習意欲や自己実現を目指す進路指導の工夫 ②本校の教育活動についての適時・適切な情報発信の工夫・充実 ③PTA、地域の小中学校、関係機関との連携の強化	①「総合的な探究の時間」やLHR等を活用した進路指導の充実 ②生徒の多様なニーズや大学入試改革に対応した進路指導の工夫・改善 ①HPのコンテンツの充実、学校説明会(校内・校外)におけるアピールポイントの精選と実施方法の工夫 ①保護者に対する適時・適切な情報提供 ②小中学生や地域等への魅力の発信	①進路意識啓発指導や進路講習等の実施及び生徒の参加状況 ②具体的な将来設計をふまえた進路意識を持つ生徒の状況 ③第一志望を貫いた受験状況 ④共通テスト、英語4技能検定への対応の進捗状況 ①HPの更新及び閲覧状況 ②学校説明会等への参加状況 ③受験生や保護者の本校及び本校の説明等に対する評価 ①保護者会や面談の実践状況及びそれに対する保護者の評価 ②小中学校や地域の行事等への積極的な参加状況 ③中学校や学習塾、教育関係機関等の本校に対する評価	①大学入試改革を見ずえた生徒の意識啓発、指導の工夫・改善の取組 82.1%【教】 ②入学時にキャリアを考えている生徒が少ない。 ③約200名が国公立大学を希望し、センター試験を367名(英語受験者数)が受験。 ④英語4技能検定や記述式問題に関する大学入試の変更について周知するとともに、生徒に求められる資質等についての指導に努めている。 ①HP記事は随時更新に努めている。中学生等の学校説明会等についての情報把握はほぼHPとなっている。今後、HPデザイン等の更新を予定。 ②学校説明会等への参加数は増加。内容も充実。 ③本校に対する評価は引き続き良好。 ①生徒・保護者に面談等を実施。学校生活への不安のある生徒・保護者への教育相談を実施。 ②部活動での小高交流、科学部活動の地域イベントへのボランティア参加増加。越谷特別支援学校との交流、地域の防災事業を実施。 ③中学校及び塾等の本校への評価は良好。	B	①大学入試改革で求められる知識や思考力などを身に付けさせるための指導の充実 ②高校卒業後の進路を意識した高校生活の充実と進路指導の工夫 ③生徒及び保護者、校外に対する適時・適切な情報提供のためのHPの改修 ④学校説明会等を含む生徒募集対策の体系化と実施内容・方法の工夫・改善 ⑤働き方改革をふまえ、重点化した小高交流・中高交流や地域イベントへの参加	○大学卒業後も見据えて学んでいくことは、高校生では難しいのではないかと。 ○「自分は何がしたいのか」ということに生徒が気付くことのできる授業をしてほしい。 ○「学校行事が活発に行われているか」という生徒アンケートのポイントが、学年を経るにつれて下がる。学校行事で生徒が活発に動く様子を外部に見せることができるとよい。 ○土曜公開授業などで生徒が動く姿を、生で見せてほしい。 ○理数科の存在は大きいですが、学校の魅力の発信力が弱い。 ○地域に溶け込んで、連携を図ってほしい。	

【教】：教員アンケートにおける回答率を示す